

多摩川や市内の川でみられる 底生動物と水質との関係

BOD(生物化学的酸素要求量)
有機物による水質汚濁の程度をあらわし、数字が大きいほどよごれていることを示している。

▼とてもきれい BODおよそ2.5mg/ℓ以下



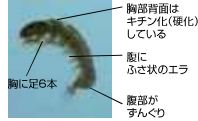
サワガニ
◀甲冑20mm▶
水がきれいだと砂や礫の多いところを好む。体の色は赤、茶、青と様々。



カウナ
◀20~30mm▶
ホタルのエサになる貝。流れのゆるやかなところの石や泥礫に生息する。



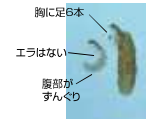
ゲンジホタル(幼虫)
◀25mm程度▶
幼虫の間は水中でカウナを食べて育つ。土の中に潜って蛹になる。



シマトビケラ(幼虫)
◀8~15mm▶
石の表面や隙間にクモの巣のような網をはることが多い。



ヒメシロカゲロウ(幼虫)
◀5~8mm▶
水中を泳ぐのに適した形をしている。色々な河川で見つかる。



ヒメトビケラ(幼虫)
◀3~5mm▶
砂粒や藻類で巣を作る。とても小さい。



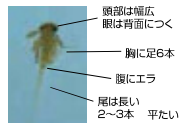
アメリカシロフススミシ【外来種】
◀8~20mm▶
在来種のナミズミシは耳が伸びず、きれいな水に生息する。一般にフナナリアと呼ばれる。



アメリカザリガニ【外来種】
◀100mm程度▶
他の生物を捕食して生態系を破壊してしまう要注意外来種。



ユスリカ(稚虫あり)(幼虫)
◀2~15mm▶
汚れた水域の泥の中などにいる。



ヒラタカゲロウ(幼虫)
◀5~15mm▶
体が平たいので水の抵抗をあまり受けずに石の表面をはい回れる。



ヒラタドトムシ(幼虫)
◀5~10mm▶
石の表面にはりついている。流れが速いところにもいる。



ヒメシロカゲロウ(幼虫)
◀2~5mm▶
流れの緩やかな泥の多い河床に生息。カゲロウの中でも小型種。



オナシカゲロウ(幼虫)
◀5~10mm▶
川底にたまった落ち葉をかじって食べる。小型種。



オニヤンマ(幼虫)
◀40~50mm▶
砂泥底や落ち葉の下に潜っている。大型なヤゴ。



オニヤンマ(幼虫)
◀40~50mm▶
砂泥底や落ち葉の下に潜っている。大型なヤゴ。



ヘビトンボ(幼虫)
◀50~60mm▶
大きなアゴで噛みつかれると痛い。ムカデのような見た目。底生動物の中では大型。



フユ(幼虫)
◀4~8mm程度▶
吸盤で石の表面にはりついている。



ガガンボ(幼虫)
◀9~50mm▶
全体的にやわらかくイコモシムシ状。



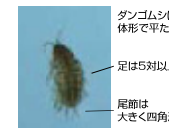
コオニヤンマ(幼虫)
◀31~35mm▶
著しく扁平な広葉状の特異な体形をしたヤゴ。



ハグロンボ(幼虫)
◀22~28mm▶
植物の根際で生息する。幼虫は淡褐色で、成虫は黒色。



シジミ
◀10mm程度▶
幼貝は黄色で、成長するにしたがって黒くなる。



ダングムシに似た体形で平たい
足は5対以上
尾節は大きく四角形



ミズムシ
◀10~40mm程度▶
2本の黒い縦線があるのはシマイシビル。貝類やミズムシ等の体液を吸う。



イトミミズ
◀殻大40mm程度▶
泥の中にすみ、酸素が少ななくても生きていられる。



ヒラマキガイ
◀5~10mm▶
流れが緩やかで植物が豊富な場所に生息。



モノアラガイ
◀5~10mm▶
殻のどがった方を上にして見て、口が右側についている。



サカマキガイ
◀5~10mm▶
モノアラガイよりさらに汚濁に強い。